

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100833		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームよつば		
所在地	群馬県前橋市新下田町315		
自己評価作成日	令和4年9月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和4年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>人としての尊厳を大切に考え、丁寧な言葉遣い・対応を心掛け、一人ひとりの個性や性格の理解に努め、利用者様が生き生きとした生活が送れるよう配慮している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設2年目を迎えたが開設時から大切にしている食事作りやレクリエーション、各利用者が大切にしてきた生活歴や家族との関係性をコロナ禍であっても継続できるように努力している様子が分かる。一連の「楽しい食事」を提供するために近くのスーパーで職員が材料を調達して作り、提供している。誕生日や行事の時には、利用者のリクエストを叶え、昔ながらの伝統食にアレンジを加え、見た目と味にこだわり提供している。外出に関してはコロナ禍ではあるが、ホームの周りや花の水遣りで外に出たり、四季を感じてもらえる桜や紅葉鑑賞に小人数で出かけ、楽しんでもらえる工夫に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール・事務所に掲示し、職員会議の中で唱和し理念の共有に取り組んでいる。	理念は掲示してあり、唱和や掲示を見てもらい浸透できるようにしている。職員の日頃の支援から利用者の希望を引き出し共有できている様子が伺え、理念が浸透しつつあるとホーム長は感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や広報で地域との情報共有を行っている。	広報が届けられ、利用者も共用空間で手に取ってみている。地域の住民からホームの駐車場の利用を依頼され提供した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為、運営推進会議の資料を地域の方々へ配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回ホームから状況報告書をご家族様・区長様・民生委員様に渡し意見を頂けるようにしている。会議はコロナ感染対策の為中止	書面開催としている。行事報告、活動報告、地域のハザード情報、時期のトピック等の事業所の現状をまとめた議事録や資料を運営推進会議メンバーに届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の他、法人を通じても市町村とは関わりを持つようにしており実践に活かしている。	ホーム長と連携を図っている法人の課長が市担当者に事業所の状況を伝え協力関係にある。また、認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束をしない介護を行っている。	玄関は電子錠になっており解錠していない。2ユニットの事業所でユニット間の引き戸も閉めている。利用者から「外に行きたいよ」と声が上がれば外気浴を兼ねて出かけたたり、窓から外の景色が見えるようにカーテンを開けている。	電子錠だが解錠できる時間を見計らい、施錠が常態化しないように支援を工夫してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで学ぶ機会を持ち、虐待のないホームになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業サービスや成年後見人制度を活かした支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時本人・ご家族に重要事項説明書・利用契約書を十分に説明を行い、質問にも丁寧に答え同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は、速やかに対応するように努めている。ご家族来苑時職員から声をかけて意見・要望を聞くようにしている。	本人からは散歩したい、外に出たい等希望が出ており反映するために工夫している。家族との面会は警戒度に応じて工夫し、日頃の様子や衣替えに関してや疑問等を出してもらい、オンライン面会や電話で状況を説明して	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員からの意見・提案を聞いている。職員会議の中でも意見・提案を聞き反映させている。	ホーム長と副ホーム長が連携し職員の意見を日常的に聞いている。可能な限り意見を試してみて、利用者の支援に活かしている。個別面談を通して意見を聞く機会にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう環境の整備に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・管理者研修・介護職員初任者研修・介護福祉実務者研修を受けている職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より、本人からの話しを十分に傾聴し、性格などの把握を行い、安心して共同生活を送る事が出来る様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりご家族から不安や要望等の思いを伺う機会を持ち、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め適切な対応が行えるように努めている。本人・ご家族の意見を聞く事を大事にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の人格を尊重し、より良い関係づくりに努めている。職員は共に生活するという気持ちで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時や電話等で連絡・報告しながら情報交換をし、良好な関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・来苑はコロナ感染対策の為中止ですが、希望者にはオンライン面会や窓越し面会を行っており、関係が途切れないよう支援していきたいと考えている。	共用空間でのYouTubeを取り入れた体操やリハビリ体操、時期の花見やドライブ、仏壇へのお供え等今までの生活習慣を継続する取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声を掛け橋渡し役に努めている。また仲の良い利用者から声を掛けて頂き、笑顔が見られる関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・ご家族より希望を伺いその人らしい生活が送れるように支援し、日常生活の言葉や仕草から情報を集め思いを汲み取れるよう努めている。	ケアマネージャーが週2回訪問し、日常の様子から推察したり、本人との会話を通して意向等確認している。家族からは、電話で希望等確認し、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人・ご家族から詳しく伺い日常生活でも拾い集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを活用し、日常の会話や仕草から、それぞれの思いを感じ取れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが本人・ご家族からの要望・意見を伺い、介護計画に反映し毎月の職員会議・カンファレンスで気づき・意見を出し合っている。	月1回のモニタリングをケアマネージャーが実施。3か月毎にアセスメントと共に介護計画の見直しを行っている。職員会議時に担当者会議を行い共有している。状態変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日実施し、職員会議等で意見交換し、実践・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族から希望を聞き支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様・民生委員様・消防署等と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診・緊急時の往診・相談等の支援を受けている。	入居前のかかりつけ医の継続や協力医への変更は契約時に説明し選択してもらっている。協力医の定期受診は事業所で支援し、かかりつけ医や専門医の受診は家族支援としている。歯科受診は必要時に往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護師の週1回の健康チェック、緊急時来苑・相談・配薬セット管理の支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者・ご家族の希望を伺い、病院と連携を取り、早期退院に向け働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員が方針を共有している。 今後、ご家族様より希望があれば主治医と相談し対応していく予定。	終末期対応に関する法人の指針があり、指針に沿って家族の希望を段階的に確認しながら、医師の判断を仰ぎ、家族等の希望や気持ちに沿う支援を実践することを職員は共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置・緊急マニュアル作成し実践に役立つように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の立ち合いによる避難訓練と、毎月自主避難訓練を行っている。	地域のハザードマップから立地は洪水地域であることを確認している。利用者と職員は毎月の自主避難訓練(火災・漏電)を実施している。備蓄は食料(米・水・缶詰・レトルト食品等)を3日分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣い・対応を心掛けている。一人ひとりの個性や性格の理解に努めている。	利用者にはリハビリ体操等の誘いでも希望を聞き、思いを尊重している。居室でのテレビ鑑賞や利用者同士の会話も聞こえており、自主性や個性を尊重している。誕生日や行事ではリクエスト(お赤飯やいなりずし等)に応えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志表示を持つケアに努めている。利用者によっては、選択しやすいように2択にし自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日ご本人が洋服を選びおしゃれを楽しんで頂いてます。利用者によっては、選択しやすいように2択にし決定出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や旬の食材を献立に取り入れられている。コロナ感染対策の為準備や一緒に食事はしていない。	コロナ禍ということもあり、食事は楽しみな時間となるように材料を調達し、職員が利用者の好みや季節を感じられる食べ慣れた調理方法で作っている。誕生会の特別食や飲み物も好きなものを選ぶよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況を把握し、必要な栄養・水分量をその人に合った方法で無理なく摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、毎晩義歯消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かし、さりげなくトイレ誘導をしている。	トイレでの排泄を支援している。各人の排泄パターンに沿って昼夜聞き取ったり確認をして、快適な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調に合わせて適度な運動を行っている。乳製品・食物繊維・水分等多めに取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り本人の希望に沿って入浴して頂いている。介助する職員が声掛けを行っている。	概ね週に2回午前と午後に入浴支援をしているが、2回の他に日によっては入りたい希望が出た場合は支援に繋げている。入浴の用意を利用者と一緒に行い、レジ袋に洗濯物を入れてくれる人もいる。	入りたいと意見を出せる利用者もいるので、これからも前日に入った方にも声を掛け希望を叶える支援に繋げてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その方のペースに合わせて安心して過ごせるよう支援している。体調に合わせて日中でも静養時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が仕分けたものを確認し、一人ひとりに合わせた服薬の支援をしている。薬剤師からの注意点やお薬の内容も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、洗濯物たたみ、モップ掛け、カーテン開閉等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、基本的には中止しているが、群馬県の警戒レベルに合わせて対応している。(受診や検診は外出している。)	外出は感染対策をしながら、小人数でのドライブで季節の花見に出かけたり、玄関先のプランターの花の水遣りや外に出たい方に付き添って散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族の了承のもと、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話が出来るような支援をしている。家庭了承のもと、携帯電話を持参されている方もいる。オンライン面会を導入し、実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で心地よく過ごしていただけるよう、利用者と季節の花を植えたり、季節の飾り付けをしている。	玄関を入ると左右のユニットに分かれる。両ユニット共に法人の決まりに沿った換気を行い、感染症や生活臭に対応している。季節ごとの利用者の制作物を飾り、ソファや椅子、テレビが置かれ、利用者の会話が聞こえている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で好きな時にテレビを観たり、ラジオを聞いたり、お茶を飲みながら新聞を読んだりする空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や思い出の品物を持ち込み使用している。	契約時に普段使っていたものを持ち込んでほしいと家族には伝えている。仏壇やクローゼット、タンス、テレビ、椅子、テーブル、鏡等が持ち込まれている。窓からは近隣の景色が良く見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・風呂場等バリアフリーになっている。		